

YAMATO Leaf Archive



《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

— 絵と文 群馬直美 —

銀座の展覧会《ツワブキ》

「そうだ。銀座で個展をしよう!」と思い立ったのは、昨年9月のこと。

我が葉っぱ人生の今後の歩むべき道を見定めるために、この難行苦行とも思える挑戦が必要な気がしたのだ。

案の定、この1年「これでいいのか?」の連続で気が休まることがなかった。

今までに描いた葉っぱの絵に添えた文章と線画イラスト。

普段は脇役であるキャプションに焦点を当てた作品作り。たたみ1畳も2畳も3畳もある大きな紙に、マスキングテープを貼って描いていく。

長年やってきた『テンペラで見たままありのままに1枚の葉っぱを描く』こととは違うこと。

「こんなことやっていていいの? テンペラで葉っぱたちを描いた方がいいんじゃない?」

「いやいや、今、これをやっておく必要があるのだ。この1枚の葉っぱたちの生きた証、

そして亡き父や友人たちの生きた証を作品として残さなければ、蔑ろにされる命の尊さに歯止めがかからない……」。

心の葛藤と闘いながら、石を彫る様にマスキングテープで絵と文字を貼っていく。

「これでいいのだ!」と思えたのは、個展開催の前日。

大勢の人たちの手を借りて、展示空間に作品をセットし終えた瞬間だった。

「これほどまでに人間が植物に寄り添いあうことができるのか!」

そして、これほどまでに愛情深くそのひとつひとつを見つめ、慈しみを持って描いているという事実には、

今、静かに感動している。絵を超えたものに触れた喜びに、胸が震えている」

たくさんの貴重な感想をいただき、銀座の展覧会場で、私も静かな感動に打ち震えた。

これからも、身近な葉っぱたちの命の輝きを描いていきます。

〈ヤマトビオトープ園の葉っぱたちvol.21の絵と日記より抜粋 photo:阪中隆文〉

※2024年10月8日(火)～12日(土)銀座ギャラリーアートポイントにて
葉画家 群馬直美『葉っぱ劇場』夢みるぶかぶかおじさんー
もっとも身近な一枚の葉っぱー が開催され、大盛況のうちに
終了致しました。



《表紙の絵》ツワブキの花

「うわぁ、ステキ! みんなくるくるしている!」

・ヤマトビオトープ園にて2018年11月26日採集
(作品の完成日は2018年12月5日)

・紙(アルシュ極細目)/テンペラ

size:260mm×180mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神ーこの世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>